

## 令和元年度 大阪府立八尾支援学校 第3回学校運営協議会報告

□日 時 令和2年3月3日(火) 10時～12時

□場 所 大阪府立八尾支援学校 校長室

□出席者 委員6名、校長、准校長、事務局7名 計15名

□次第と協議内容（要約）

### ○校長あいさつ

### ○令和元年度学校教育自己診断（報告）

- ・提出率は昨年と比べて若干下がった。教職員の提出率も、来年度は100%をめざす。
- ・昨年の学校運営協議会で提言のあったアンケート結果について、学部別での分析も行った。また、高等部の生徒向けアンケートの文言もより回答しやすいように修正を行った。
- ・【生徒向け】は、10項目中8項目が達成基準に達した。
- ・【保護者向け】は、29項目中すべての項目が達成基準に達した。その中で、「企業・施設・作業所等の情報を提供している」や「企業・作業所実習の取り組み・支援が適切に行われている」の数値が大きく上昇した理由としては、9月に開催したPTA施設・作業所合同説明会が影響していると考えられる。
- ・【教職員向け】は、61項目中53項目が達成基準に達した。組織マネジメント項目の「学校運営」という言葉の捉え方が難しいので、何を指しているのか回答しやすい文言を検討していく。ICT関連の数値が年々下降している原因として、ICT機器の老朽化や不足等が考えられるので、早急な対応が必要である。「校内の清掃活動を意欲的に取り組んでいる」については、高等部の肯定的意見が特に低かった。高等部が使用しているプレハブ校舎の影響が大きい。
- ・記述については、特に多く出た意見についてまとめて回答した。

### ○令和元年度学校経営計画の評価（報告）

- ・自己評価が(◎)(△)の項目について。  
**中期的目標1「支援教育における専門性及び指導技術の向上」**  
(△) 教職員向け自己診断に「教材・教具の活用について」の項目を新設できなかった。来年度の課題である。  
(△) 教職員向け自己診断の「ICT機器の活用」項目の肯定的評価が9%減になってしまった。  
(◎) 経験の少ない教員中心に、支援相談会を年間で40回以上実施できた。  
**中期的目標2「キャリア教育・進路指導及び魅力ある取組みの充実による自立や社会参加の実現」**  
(△) 地域に向けた取り組みは、受け入れ側の都合もあることなので、企画立案に至らなかった。  
**中期的目標3「安全安心で活力あふれる組織及び学校作り」**  
(◎) 来校相談の環境を整えることにより、年25回以上実施できた。

(◎) 保護者向けの学校自己診断の「災害に備えた取り組み・・・」の肯定的評価の上昇理由は、訓練の保護者見学とアンケートを新たに実施できたことが考えられる。

(△) 来年度運動会が2部開催になることもあり、分掌再編は保留となった。

・高等部

#### 中期的目標1

(△) 新様式に対応したシラバスを作成するための準備を進めた。

(◎) 教材バンクの活用については、プロジェクトチームを結成し、検索しやすいようにインデックスを作成した。

(△) ICT活用の意識は高まっているが、満足度は上昇していない。活用があたりまえになってきているので、活用という言葉の認識が数値に影響しているのかもしれない。

#### 中期的目標2

(◎) 生徒の自己理解やマナー習得に結び付く学習は、肯定的評価が上昇した。

(◎) 中小企業家同友会との連携を強めるなどして、16社の実習先を新規開拓できた。

(◎) 保護者向けの進路研修会・施設見学会を10か所で18回開催できた。

#### 中期的目標3

★学校の美化を推進するために、イベント的な取り組みを検討し、教員のモチベーションの向上を図る。

### ○令和2年度学校経営計画（案）

#### めざす学校像

・昨年度と変更なし。

#### 中期的目標

・シラバスの整備や指導計画等の様式の統一などを通じて、3学部を見通した評価のあり方の改善も行う。

・居住地校交流については、首席が大半の業務を担っていたが、交流した児童・生徒の様子がフィードバックできるように担任が主として担えるシステムを構築する。

・八尾アスレチックフィールドを活用した授業を推進していく。

・就労の目標数を新たに記載した。

### ○委員からの提言等〈質疑応答・意見・感想等〉

Q：PTA施設・作業所合同説明会はどのような会なのか。

A：昨年に学校運営協議会で提言があり、実施に至った。18法人43の事業所に来ていただき、体育館にブースを作って個別相談を行った。約100名の保護者が来校されて、とても好評だった。ただ、集められる施設・事業所数には限界があるので、場所や日程等については検討が必要である。

\*：施設・作業所を個人で見学するのには限界があり、機会も多くないのでとてもよい取り組みだと思う。

Q：就労を目標にすることも学校として大切だが、適切な進路先だったのか定着率などを知ることも必要。先を見据えた支援が大切。そのためにどのような取り組みを行っているのか。

A：在学中も卒業後も笑顔でいられるようにと日頃から児童・生徒に話をしている。定着率

を上げるために、実習先を増やす、販売実践を行う、キャリア指標を生徒自ら行い自己理解を行う、フロンティア拡大会議を行うなど、学校として取り組んでいる。

\*：卒業後すぐに就職という考えだけではなく、将来的に「就職したい」と思えるような取り組みを行ってほしい。

Q：防災や災害について、学校の避難訓練などを通して、自宅で災害が起こった時の対応や避難を考えるきっかけに繋げてほしい。

A：避難訓練を行うことで保護者への啓発にも繋がっていると思う。自宅での対応や避難については、学校から指示はできないので各自治体からも発信していただけたらありがたい。

Q：やるべきことや新たな取り組みは限りなくある中、働き方改革とどう両立させていけるのかが課題。学校ではどのように考えているのか。

A：昨年度に行事の精選を行ったが、教員からはすべての行事を残したいという回答だった。管理職として業務の選択と集中が必要だと感じている。目的や児童・生徒の身につく力が重なっている行事や取り組みを見直していきたい。

A：どうやって業務効率を上げていくのかではなく、なぜこの業務をやっているのかを考えていかなければ働き方改革につながらない。児童・生徒たちのためにという視点で考えていく必要がある。

\*：仕事を行う上でやり方は色々あるが、「目的が何か」という丁寧な説明があれば業務改善に繋がっていくと思う。

\*：「やお防災マップ」が今年2月に更新された。福祉委員会として、今後も学校と連携していきたい。

\*：ここ1、2年で八尾支援学校は大きく変わってきた。次年度以降も期待したい。

## ○府教育委員会への提言について（検討）

\*教員の資質向上に向けた人事異動・交流について

## ○准校長あいさつ

## ○閉会